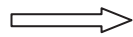


感覚過敏を和らげるための支援

〔児童の姿〕

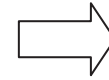
室内のざわめきや大きな音に耳をふさいだり、部屋やその場から離れていく。



〔具体的支援〕

- ・周りの音や、耳に入る音をコントロールする。
イヤーマフ・耳栓など

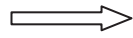
⑬



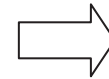
〔具体的状況〕

- ・部屋から出て行くことが少なくなる。
- ・イヤーマフをつけて部屋で過ごすことができるようになる。

特定の物しか食べない。

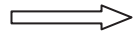


- ・感覚過敏によるもの、苦手なものを確認し、形状を変えたり、量を調整するなど無理強いしないように工夫する。
- ・苦手なことを自分から伝える方法を知らせる。



- ・食べられないことを理解してもらおうと、安心して一口食べてみようとする。
- ・残しても大丈夫ということがわかると、吐き出したり捨てることが少なくなる。

服のタグや肌触りが気になり、活動に集中できない。



- ・タグを取り除いたり、肌触りや着心地のよい服に着替える。



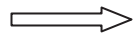
- ・感覚の煩わしさが減り、活動に集中できるようになる。



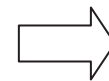
POINT

感覚過敏のあることに対して、その要因を特定し、可能な限り取り除いたりコントロールし、苦痛や恐怖を与えないようにします。また、反対に感覚鈍麻(怪我をしても知らん顔、痛みを感じないなど)の場合には怪我や体調に十分注意します。

周囲の様子を見ながら部屋の中をくると何周も歩く。



- ・部屋の中を回り始めたら「〇回でおしまい」と終わりを決める。
- ・あそびカードを使って、好きな遊びに誘いかける。



- ・自分で回数を決め、決めた回数が終わると次の遊びに向かうことができる。
- ・カードを使って何をしてあそぶかを考え、自分で決めることができるようになる。



POINT

クルクル回る、手をひらひらさせるなどの常同行動は無理に止めることは好ましくありませんが、始めると他の感覚情報が入りにくくなるので、そのこどもの好きな遊びに誘う、手を強めに握るなどの他の感覚を入れるなどをして切り替えます。